令和元年９月24日　№06

学校教育目標：心豊かで，主体的に行動できる生徒の育成

けやき

南中学校学校だより

校　長　加藤新吾

平成３１年度　全国学力・学習状況調査の結果について

はじめに

本年度の全国学力・学習状況調査は，全国の中学校３年生を対象に４月１８日（木）に国語・数学・英語で実施されました。

この調査は，「教科に関する調査」と「生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査」の２種類からなっています。本年度より，「教科に関する調査」では「知識」に関する問題（Ａ問題）と「活用」に関する問題（Ｂ問題）を分けることなく，一体的に問われることとなりました。また，調査結果を基に，生徒の学力や学習状況を分析・把握し，各教科における成果や課題，生活状況の実態等を明らかにし今後の指導の改善に役立てることを目的としています。

本校では，各教科担当を中心に分析を行ってきましたが，このたび分析結果がまとまりましたので，その概要をお知らせします。今後，３年生には個人票を返却し，自分のつまずきを知り，その改善に取り組むように指導します。また，学校としても，全学年で授業や指導のあり方を見直して，改善していきたいと考えています。

学力調査の概要

平均正答率を比べてみると，国語と英語は，全国や県より高い結果となりました。また，数学は全国及び県と同程度との結果でした。集団としての正答率も大切ですが，学力学習状況調査では生徒一人一人の課題を把握し，これからの指導に生かしていくことが，最も重要となります。

県・全国の平均正答率			
	国語	数学	英語
県	75	60	55
全国	72．8	59．9	56．0

各教科の成果と課題（○：成果　△：課題）

国語

○本校も本県の傾向同様に平均正答率が高く，全１０問中の全てで正答率６割を超えている。また，無答率も低かった。

○「言語についての知識・理解・技能」のについての正答率が高かった。

△「書くこと」に関しても良好だったが，入学時のNRT検査と比べると大きな変化はみられなかった。

数学

○数量に関わる設問，数量の関係を文字式に表す設問，図形に関する設問の正答率が高かった。

○総合的・発展的に考え，条件を変えた場合について証明の一部を書き直す設問の正答率が高かった。

△関数のグラフを事象に即して解釈する設問の正答率が低かった。

△簡単な確率を求める問題の正答率が低かった。

△連立方程式やグラフを用いて解答を求める方法を説明する設問の正答率が低かった。

△ヒストグラムの特徴をもとに説明する設問の正答率が低かった。

英語

○まとまりのある文章を読んで，理解する設問の正答率は全国平均に比べて高かった。

○文章を読んで適切な接続詞を入れる設問の正答率は高かった。

△聞く領域，話す領域で基本的な語彙を扱った問題の正答率が低かった。

△「来日する留学生の音声メッセージを聞いて，部活動についてのアドバイスを書く」という設問の正答率が低かった。

△食料問題に関する文を読んで，自分の意見を書くという設問の正答率が低かった。

△ある女性について説明文を書く問題であるが，やはり３人称単数のｓを忘れる生徒が多かった。また前置詞の使い方の間違いも多くみられた。

△「与えられたテーマについて自分の考えを整理し，まとまりのある文章を書く」という設問の正答率が著しく低かった。

各教科における主な改善点

国語

・講義的な読みの指導から，自分で読み，ねらいや目的に応じて読みを説明したり，書いたりする指導へ授業形式を積極的に転換していく。

・複数の文章や図表から共通したり違ったりする情報を読み取り，比較して考える学習を積極的に取り入れていく。

・大きくとらえる読みから，語彙，文法，構成・展開，文と文の関係性に注目した精読や表現を意識してさせていく。

・細かな国語的な知識・技能にこだわった指導する。

・普段から単語で話さず，ひとまとまりの意味が伝わる文，構成を意識した表現をするように指導する。

数学

・確率の必要性と意味を理解させ，簡単な場合について確率を求められるよう繰り返し指導する。

・資料やグラフから情報を読み取り，自分の考えを記述・説明する機会を増やし，繰り返し指導する。

・日常の事象や身の回りにあるものを題材とする機会を増やし，その中にある数量関係を数学的に表現・説明できるよう繰り返し指導する。

英語

・基本的な語彙や表現を使って，話したり書いたりする活動を日常的に授業に取り入れる。
・アウトプットの活動を通して，間違えに気づき，基礎基本の定着に結び付ける。
・家庭学習に「音読（速読）」を入れていく。
・日常的な話題だけでなく，様々なテーマを題材にして自分の考えを表現する活動を行う。
・教科書の内容を理解した後で，それについて自分の考えを発表したり，書いたりする活動を行う。
・まとまりのある文章を書く活動では，内容に重点を置く場合と正確さに重点を置く場合を分けながら評価していく。

学習状況調査（質問紙調査）の概要

◎：肯定的な回答の割合が高い設問
○：肯定的な回答が全国平均を上回っている設問
▲：肯定的な回答の割合が低い設問
△：当てはまる回答の割合が全国平均を下回っている設問

学校や家庭での生活について

◎「ものごとを最後までやり遂げて，うれしかったことがありますか」（94%）
◎「学校の規則を守っていますか」（95%）
◎「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか」（95%）
◎「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」（92%）
◎「先生は，授業やテストで間違えたところや，理解していないところについて，わかるまで教えてくれていると思いますか」（89%）
○「自分にはよいところがあると思いますか」（82%）
○「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」（89%）
▲「新聞を読んでいますか」（24%）
△「朝食を毎日食べていますか」（76.0%）
△「毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか」（23.3%）

授業について

◎「授業で学んだことをほかの学習に生かしていますか」（84%）
◎「あなたの学級では，学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い，互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていると思いますか」（86%）
◎「学級活動における学級での話し合いを生かして，今，自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか」（81%）
◎「1，2年生の時に受けた道徳の授業では，自分の考えを深めたり，学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか」（83%）
○「総合的な学習の時間では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことなどを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」（78%）
○「生徒の間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか」（79%）

各教科について

	国語	数学	英語
勉強は好き	４７％	５４％	６０％
勉強は大切	９２％	８４％	８７％
授業は分かる	７３％	７１％	６９％
将来役立つ	８６％	７７％	８６％

家庭学習について

○「家庭での学習時間について３時間以上」（21.3%）
（２時間以上の生徒と合わせると 47%）
▲「自分で計画を立てて勉強していますか」（47%）

地域との関わりについて

○「日本やあなたが住んでいる地域のことについて，外国の人にもっと知ってもらいたい」（66%）
▲「今住んでいる地域の行事に参加していますか」（46%）
▲「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」（46%）

質問紙調査からの改善策

・学校のきまりを守ることが大切だと考えたり，いじめはいけないと考えたりしている生徒の割合が高い。また，人の役に立つ人間になりたいと考えている生徒も９割を超えていることから，規範意識が高く，集団や社会で前向きに力を発揮できる生徒が多いと考えられる。また，「今学んでいることが社会に出たときに役立つ」と思っている生徒も８割以上はいる。その半面，「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」では，肯定的に答えている生徒は半数以下である。このことから，学校で学んでいることと地域や社会を結びつけることが必要であると考える。教育活動の様々な場面で，それぞれの将来や地域社会につながることをより一層意識した指導をしていきたい。
・「自分で計画を立てて勉強している」という生徒の割合が半数に満たない。「今，自分に必要な学習は何なのか」「何をどのくらい勉強する必要があるのか」など自分で考えて取り組める「自律した学習者」を育てる必要がある。各教科での学習指導や家庭学習の習慣化などをよりいっそう進めていきたい。
・朝食を食べることやきまった時刻に就寝することなど基本的な生活習慣が確立していない生徒も見受けられる。健全な学校生活を送り，学力をつけるためには必要不可欠なことなので，家庭と連携しながら改善を図っていきたい。
・新聞を読んでいる生徒の割合は 2 割程度である。現在は新聞だけが社会の情報を得るツールではないが，何らかの形で社会の出来事に目を向けさせ，広い視野で物事を考えられるようにする必要がある。1 週間に 1 回，朝の学びで新聞記事を読む時間を設けているが，今後，家庭とも協力していきたい。